

## 市民病院

刈谷進一 議員(二十一世紀の会)

**問** 国保匝瑳市民病院経営健全化計画は、経営基盤強化補助金を捻出するために作つたのか。平成27年度の推計で1億6,600万円の資金不足はあるが、そうならないのでは。また、病院の医師問題の現状、建て替え問題の進捗状況、建設検討委員会のメンバーについて伺う。

平成26年度の市民病院運営状況は、恒常的な医師不足により病床利用率が40パーセント台まで低迷したことにより、収益も大幅に減少したところである。昨年12月には、現金・預金が1億円を下回る見込みであったことから介護老人保健施設事業から1億円の短期借り入れを行い、年度中の資金繰りに対応した。平成27年度においても医師確保が難しく、增收に期待することができない見込みであり、毎月必要な現金1億5,000万円を下回ることが見込まれたことから、平成26年度に、平成27年度から平成29年度までを計画期間とする経営健全化計画を策定した。

健全化計画の中では、病院が経営努力をしても3年間で約6億円の赤字が生じる見込みであることを、経営基盤強化を図るために一般会計から3億円の基準外繰り入れをお願いしたところである。

病院の医師確保については、平成26年度より派遣が途絶えていた旭中央病院からの内科医師について、本年4月より前期研修医と指導医を派遣してもらっている。この派遣については、昨年来、県の医療整備課を通し、旭中央病院の地域医療支援センターからの派遣要望を行い、旭中央病院の事業管理者、病院長、開設者である旭市長へも要望して実現したものである。

医師奨学金制度については現在2名に奨学金を支給しており、今後も、積極的に活用してもらえるよう努力していく。また、再度本年9月から医師確保専従職員(臨時)を配置し、紹介業者に登録されている医師へのスカウトメールの発信、コンタクトが取れた場合の交渉等を行っている。

引き続き、千葉大学、旭中央病院へ医師の派遣をお願いしている。

病院の建て替えに係る病院建設検討委員会のメンバー構成や現在の進捗状況に

平成27年度の推計では1億6,600万円の不足との推計とはならないので、のことだが、平成27年度8月末現在で、現金・預金残高は2億1,120万円となつており、昨年の資金は、1億円の繰入元に推計すると、今年度末までの資金は、1億円の繰入金を除くと現金・預金は900万円以下となると見込んでいる。

病院の医師確保については、平成26年度より派遣が途絶えていた旭中央病院からの内科医師について、本年4月より前期研修医と指導医を派遣してもらっている。この派遣については、昨年来、県の医療整備課を通し、旭中央病院の地域医療支援センターからの派遣要望を行い、旭中央病院の事業管理者、病院長、開設者である旭市長へも要望して実現したものである。

また、検討委員会メンバーの構成は、今のところ未定である。近隣の香取市で国保小見川総合病院の建て替え整備検討委員会を設置した例があり、参考にしたい。



△ 平成31年度に建て替えが予定されている市民病院

佐藤悟 議員(二十一世紀の会)

**問** 市民病院入院患者の転院手続きについて伺う。病院手続きが低いのに他の病院へ転院させる理由は何か。

当病院は急性期病院であり、病気で入院した患者は、その病気の治療が終われば退院していただくことになる。入院時の病気が治癒しても他の慢性疾患があり、自宅での在宅療養が困難な患者については、医療連携室で症状にあつた病院に連携して紹介している。現

代の病院は機能分化しておらず、高度急性期、急性期、回復期、慢性期など、症状に応じて入院する病院が異なつておらず、その人に適した慢性期病院等に転院している。当病院のような急性期病院では、在院日数がとても良いことだと考えている。当病院のような急

性期病院では、在院日数が治療報酬に影響があり、直近3カ月平均の在院日数が

ついては、本年3月に決定した市の施設整備計画の中で市民病院の建て替えを位置づけたところである。本年3月に、総務省から新たな公立病院改革ガイドラインが示され、各自治体において新公立病院改革プランを平成28年度末までに策定することとなつた。この改革プランは、都道府県で作成する地域医療構想と整合性を取るものとされていることから、県の地域医療構想の公表時期を確認したところ、平成28年4月の決定・公表とのことなので、当初計画で、平成27年度に病院建設検討委員会の設置の方針を、平成28年度に新公立病院改革プランと一緒に病院建設検討委員会を一体的に発足する方針に変更したところである。

また、検討委員会メンバーの構成は、今のところ未

都祭広一 議員(友志会)

**問** 市民病院の運営について、地域医療構想の策定状況について伺う。また、公立病院改革ガイドラインから見た市民病院の現状について伺う。

21日を超えると、全入院患者の入院基本料が減算の対象となり、大きな収益減となる。急性期治療を終した患者には、転院、退院をお願いしている。

公立病院改革ガイドラインから見た市民病院の現状と今後について、市民病院は、地域中核病院として、他の医療機関では満たせない質的水準の医療を行うたる重要な役割を果たし、地域防災力の中核としての役割を果たしていくためには、消防団が将来にわたり、地域防災力の中核としての役割を果たしていかなければなりません。消防団が将来的に充実強化は不可欠であり、今後は近隣市町の状況を勘案し、団員報酬の増額を具体的に検討したい。

定状況は、第1回県地域保健医療部会で示された資料によると、第二次保健医療圈単位での地域の医療関係者等の意見聴取の場として地域保健医療連携会議を7月から10月にかけて行い、香取海匝地域保健医療連絡会議については9月17日に行われる。その後、10月末に第2回県地域保健医療部会に計画素案が提出された後、各医療圏単位での地域医療構想調整会議を開催し、計画素案が検討される予定である。

1月を目途に第3回県地域保健医療部会で計画試案が作成され、2月に医療保険者・医療関係団体・市町村等への意見照会と同時に、パブリックコメントを実施し、3月に第1回医療審議会が開かれ、総会が開かれ、計画案の諮問・答申が知事あてに行われ決定し、平成28年4月に地域医療構想が決定・公表となる見込みである。

公立病院改革ガイドラインから見た市民病院の現状と今後について、市民病院は、地域中核病院として、他の医療機関では満たせない質的水準の医療を行ったための医療機能を有し、また、救急、リハビリテーションなどの重要な役割を果たしている。消防団が将来にわたり、地域防災力の中核としての役割を果たしていくためには、消防団の待遇改善と充実強化は不可欠であり、今後は近隣市町の状況を勘案し、団員報酬の増額を具体的に検討したい。

## 消 防

山崎等 議員(新政会)

**問** 消防団について、今年度からの組織変更の内容について伺う。緊急時対応時組みについて伺う。

今年度からの消防団組織の変更については、合併組みについて伺う。緊急時対応時組みについて伺う。これまで八日市場地区は小学校ごとに1分団、野栄地区は小学校区に2分団であったものを、小学校区ごとに1分団とした。

火災発生等緊急時の出動団員の確保対策として、特に平日の日中は出動団員の不足が懸念されるが、今のところ消火活動に支障をきたしたという報告はない。

出動団員の不足により消防活動に支障があつてはならぬので、今後は消防団と匝瑳市横芝光町消防組合が密に連携を図っていくとともに、須賀分団を取り入れている支援隊や、平日の日中に活動を限定した機能別消防団員や機能別消防分団の導入を検討していく。

公立病院改革ガイドラインから見た市民病院の現状と今後について、市民病院は、地域中核病院として、他の医療機関では満たせない質的水準の医療を行つたための医療機能を有し、また、救急、リハビリテーションなどの重要な役割を果たしていくためには、消防団が将来にわたり、地域防災力の中核としての役割を果たしていくためには、消防団の待遇改善と充実強化は不可欠であり、今後は近隣市町の状況を勘案し、団員報酬の増額を具体的に検討したい。

地域に必要な医療を提供していくことはもとより、住民ができるかぎり地域で生活できる環境を提供することができる環境を提供するこれが、市民病院の役割と考えている。